

「愛媛県被災動物救援本部」設置の要望書を愛媛県へ提出

日時:平成23年4月28日(金)

場所:愛媛県庁 業務衛生課

参加者:愛媛県 業務衛生課 1名、当会 1名

「松山市被災動物救援本部」設置の要望書を松山市へ提出

日時:平成23年6月27日(月)

場所:松山市役所(松山市総合政策部長室)

参加者:松山市総合政策部 部長、松山市消防局 防災監、当会 3名

※詳しくはブログ7/3で報告



「松山市総合防災訓練」において自衛隊による住民とペット同行避難訓練を検討

日時:6月14日(火)14:00~15:30

場所:松山駐屯地(松山市南梅本町)

参加者:陸上自衛隊 3名と松山消防局 防災対策課 3名、当会 1名

趣旨:市及び自衛隊がペットと同行避難訓練を実施し、その問題点を把握するとともに住民に対してその意義を周知させる。

目的:震災において、市、自衛隊及び獣医師等関係諸機関の連携により、住民が迅速かつ安全に避難できるようにするため。

報告:自衛隊の皆さんが考えられている事は、当会が「飼い主とペットの為の自主防災」で訴えている事と全く同じです。

それぞれの立場でペットと同行避難を市民の方々に浸透できればと大変嬉しい思いで話し合いに参加いたしました。



平成 23年 4月 28日

愛媛県知事 中村 時広 殿

要 望 書

認定特定非営利活動法人えひめイヌ・ネコの会
代表 高岸 ちはり

「愛媛県被災動物救援本部」の設置を要望します

貴職におかれましては、日頃より県民の生活向上の為に尽力いただいておりますことを、心より敬意を表する次第でございます。また、当会活動に対し、温かいご支援・ご協力を賜り、心より感謝致しております。

さて、「東日本大震災」の被災地に残された動物達の命のカウントダウンがすでに始まっている事は、報道等すでにご存知のことと思います。多くの動物が食料も水も無いまま衰弱し死に至るのを待つ現状、またその飼い主たちの心の痛みや喪失感を考えてみましてもやりきれぬ思いが致します。同じ事が愛媛県で起こらない為に、災害時に即、被災動物の対応が出来るように「愛媛県被災動物救護本部」設置の要望書を提出する次第でございます。

(要望の理由)

- 今回の災害において、被災動物に対する対応が各県で大きく違ってきます。
中越地震、中越沖地震を体験した新潟県では地震の際、ペットと避難する被災者が多数いた事を踏まえ、3月18日に県と新潟市、県獣医師会、県動物愛護協会は「動物救済本部」を設置。地元動物愛護団体も過去の救援活動の体験があり、スムーズな連携体制を持つことが出来ました。また、ペットと触れ合う事が被災者の心の癒しになることから、安心して共生できるよう、県数カ所の避難所にペット専用スペースを設け、飼育用品を提供したり、獣医師による健康相談も行われました。
- 地元動物愛護団体によれば3月末の時点で約200頭の被災動物が新潟県に避難してきたそうです。この受け入れ体制は、動物の命を救うだけでなく、人命も救い、被災者の心身の回復にも繋がっています。これは新潟地震の際、ペットと車内で長期生活を余儀なくされ「エコノミークラス症候群」で亡くなった方がいらっしゃったり、ペットを被災地に置いてきた人の心の傷は小さくなかったということを踏まえての受け入れです。
- ペットの存在は、被災者の緊張を和らげ、被災者の心の支えになることはこれまでの災害の経験上わかっているところです。被災者とペットを引き離す結果となった場合、更なる喪失感・孤立感から、うつ状態となるおそれもあります。避難所に「ペット避難所」設置、あるいは「被災動物救護施設」が必要と考えます。
- 現在のペット人口を考えてみますと「愛媛県防災対策本部」に「被災動物救援本部」を設置する事により、スムーズな住民避難が可能になると考えられます。
「南海地震」は必ず起こると言われています。悲しい体験をしなくとも、平常時にペットと一緒に避難を想定し、防災対策を行っていれば、多くの県民の命を救う事が出来ます。
すでに「松山市総合防災訓練」においては、「ペットの避難所」を設けて、ペットと同行避難を市民に訴えておりますが、地震の被害は広範囲と予想されます。「愛媛県総合防災訓練」においても「被災動物救援本部」を設置し、この日だけでなく、日頃からの「被災動物救援本部」組織の連携体制の会議等を求めるものであります。